

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年から地域密着型サービスに移行されたばかりで、対応ができていないが、事業目的の中に、地域や家庭との結びつきを重視し、市町村・医療機関・福祉サービス事業者との密接な連携に努めると掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」は一環した揺るがぬ理念である。目に付きやすい場所に理念を掲示して、職員の自覚と意識付けをしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域への浸透は計り知れないが、スーパーで買い物中、一般の方と利用者が口論となり、職員が認知症の説明をすることで、理解してもらえたことがある。外へ向けて発信できた一歩である。		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	構造上、気軽にはいかないが、散歩に出かけた時は、あいさつを交わしたり、柿やいちご・野菜等をいただいたりして、細々と交流している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前に子ども会や親子ふれあい企画で地域活動に参加するが途切れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献は、運営推進会議を実施するにあたり課題となる。 今後、地域に還元できることは何かを、模索している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価されて、良い部分は自信となり、改善や気づきは前向きに取り組める。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はスタートしたばかりですが、会議で出た意見は、改善をして記録と報告をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員派遣事業受け入れに際し、市の担当者との機会が増えている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1名の利用者は、後見制度を活用している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約には、時間を要することを了解の上、説明には十分な時間を充てている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>4月から月1回、市の介護相談員2名の来訪により、利用者が外部へ発信できる機会を設けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時での口答、緊急時の電話連絡と報告はしている。</p>		<p>今後は担当介護員から、近況を文章で報告していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議 法人の苦情担当者を明記・公的な苦情窓口のポスターを掲示して紹介している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>特別な機会には設けていないが、申し送りや休憩時間の雑談の中から意見や考えを引き出している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ゆとりある職員数とはいかないので、職員の健康状態の把握と、勤務がハードにならないように、勤務の調整にはかなりの労を費やしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係(擬似家族的)を大切にしているので、移動は最小減に抑えている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で実施している勉強会(身体拘束廃止・感染予防・ヒヤリハット・リスクマネジメント・事故防止)に3名の職員が参加。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学交流はありますが、互いに多忙になり途絶えがちになっている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	趣味や私生活が充実できるように、職員の公休希望を受け入れている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の得意なことが職場で発揮できれば、自己実現につながるので、長所を引き出すことを念頭においている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	人生の先輩である利用者は、紆余曲折でなかなか本音が見えてこない。特に初期は、いい顔しか見せないことを踏まえて、声かけをしながら信頼関係を築いていくように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴するように心がけている。 家族との面談時、ここに至るまでの苦しい胸の中を吐き出され、涙することもある。時間を気にせず、ゆっくりと面談できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面談の際に、昼食にかかる時は、他の利用者と一緒に食事をしたり、お菓子を食べながら歓談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームとは職員と利用者が寝食を共にする中で、喜怒哀楽の感情を出し合い、擬似家族のような関係を築いていくものである 現に開設から6年も経過する中で、そのことを実践し確信する。 怒ったり、笑ったり、腹が立ったり、いたわりあったり、その中で利用者への愛おしい感情があふれてくるものです。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の多い家族とは自然と打ち解けられ、私的な会話になることもあるが、職員と家族との良い関係は、グループホームには欠かせないと実感している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と一緒に過ごしていただけるように支援している。 行事(盆踊り・遠足)等に参加していただく。 面会時、食事やお茶を一緒にいただく。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り・法事		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然と気の合う同士が集まり、雑談する中で、満たされない気持ちを共感したり、発散させたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居の場合、併設の特養へ移動するケースが多く、本人はもちろん家族ともお会いする機会があり、様子を伺ったり、相談されたりと関係は続いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思伝達が困難な利用者の場合、まだ意思表示ができていた頃の気持ちや思いを大切に、介護者は代弁者として関わっているつもりだが、本人にしか分からない部分です。...		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	早寝早起きの生活習慣の利用者には、夕食を30分早く提供している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	昼寝が必要な方、散歩にでかけると疲れる方、夕方になると落ち着かなくなる方とそれぞれの個性を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	来訪時に近況報告をする中で、家族の意見を聞き計画に取り入れている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時は 看護師・医師と相談して、計画の変更をする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診は家族に依頼していますが、車椅子用の乗用車でないと乗降が無理な場合や緊急時は、ホームーの車で職員が付き添うようにしている。家族の諸事情も汲み取り柔軟に対応しているが、職員確保がきついのは事実です。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティア・警察・消防署・スーパー(Aコープ)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の居宅介護支援事業所のケアマネジャーとは、連携を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない。		今後の運営推進会議に地域包括支援センターの職員に 加わっていただくことを検討している。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がないので、入居と同時に併設の診療所を利用。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回併設の診療所で精神科医の診察及び相談を受けられる体制になっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の診療所の看護師とは、連携を図っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	直接主治医と面談したことがある。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	共有しているが病気の場合は急変するので、方針通りには行かず、虚しさ、無力さを感じる。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開設から6年も経てば重度化して、その度に家族や職員と話し合ってきた。家族や本人の希望・思いを考えると決断できずに悶々としてきたが、重度化には対応できないことを見極めて、併設の特養へ移動していただく方針を勧めている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供書には、心理面を書き添える。 別の施設へ移る際は、面談に立ち会い、十分に話し合い、不足が生じた時は電話連絡をしている。 落ち着いた頃にホームの職員みんなで、新しい施設へ面会に行くようにしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の知識と自覚にゆだねているが、状況によっては、徹底できていないことがある。</p>	<p>メディアが騒ぎ立てるので、個人情報に過敏になり、勉強の必要性を感じている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意思表示ができる利用者には、説明をして納得してもらっているが、選択するのは難しいようです。</p> <p>日頃の雑談に耳を傾けることで、希望や好みが見えてくることもある。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の日課は食事と入浴以外は決まっていないので、天気が良ければ希望者は、散歩をして過ごすというように、時間はゆったりしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問美容を利用。</p> <p>毛染めや化粧をされる利用者2名、「口紅を塗って欲しい」と希望を出される利用者には、ホームで化粧品を用意して支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>魚が食べられない方には、代替品を提供。</p> <p>5名の利用者は、調理から後片付けに参加している。</p> <p>食事のペースが乱されないように、テーブルの座る位置に配慮している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒・たばこを好まない方ばかりで、正月だけお酒を提供。</p> <p>コーヒー・牛乳・紅茶・ココアとそれぞれの好みがあり、甘い饅頭が好きな方、あられ、おかきが好きな方と色々に対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを排泄リズムチェック表に記録して、前誘導を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者はもちろんですが、服を脱ぐような行為がある時や便で汚れた時は入浴をします。ゆっくりと介助なしで入りたい方は、その方だけの時間を設けています。歌を歌いながらゆっくりと入っておられます。 柚子を入れた柚子風呂。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後、すぐに入眠して早朝に起床する方、夜間は眠れず、明け方から眠る方と、それぞれの睡眠リズムを尊重している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生き生きと掃除や草取りをする方、台所の後片付けを積極的に考えながらする方と、役割の中に喜びを見つけている。 歌を歌っている時が一番輝いている方、ドライブして外の景色をみただけで気晴らしになる方等を支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	公衆電話を掛ける時に、10円玉を使う。 小銭を財布に入れて所持している方…3名		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブ		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と温泉に行く。 観月の夕べに家族と和太鼓鑑賞。 家族と美術館に行く。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置。2名の利用者は、自ら電話を掛ける。手紙・はがきの文面は代筆するが、差出人名は直筆で支援する。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人が大勢で訪問され、にぎやかな時がある。茶菓子を出す際に「ゆっくりして下さい」と声かけをして、帰られる際には次の来訪をお願いして、いい関係が途切れないように一言添えている。 訪問は自由で、時間制限もなし。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の特養で、身体拘束廃止委員会を2ヶ月毎に実施、ホームから1名参加して、幅広く及ぼす拘束の勉強をしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目が届かない時は、内側の扉に施錠をしているが、徘徊する利用者が、少なくなり開放している。		利用者が鍵をかけたり、外したりする傾向にあり、鍵をかけない指導をする。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	把握している。見守りも重要な仕事と位置づけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所の包丁・洗剤・ポット等の危険な物品の取り扱いは、夜間は対処しているが、普通に物品を置いている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	併設の特養で、事故防止委員会を2ヶ月毎に実施、ホームから1名出席して、知識を学んでいる。		一人ひとりに、予測される事故を想定した取り組みが必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当マニュアルがあるのみで、併設の診療所の看護師を頼っている現状だが、誤嚥に関しては、知識と初期処置ができています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震災害への避難訓練を年に4回程度実施。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	病気発症が懸念される場合、リスクについて話し合い、説明をして、現状維持を選択した時は、穏やかに暮らせる方を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の検温・血圧測定・毎月の体重測定・2週間毎の内科受診・3ヶ月毎の血液検査・春と秋の健康診断等で健康管理に努めながら常時、併設の診療所の医師・看護師と連携を図っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をみれば把握できるし、個人別の説明書を薬保管入れにファイルしている。薬の本も参考にしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給・牛乳・ヨーグルト・バナナ等を努めて提供、体操や歩く運動を実施。 便秘は、不穏や発熱、腸閉塞を起こしかねないので、排便状態を記録して、服薬調整をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがい、歯磨きを励行、夜間は義歯を外して、洗浄液に浸けている。 定期的に口腔外科医の検診あり、指導を仰ぐ。 2週間毎の歯科医の往診あり、義歯の調整や歯茎の炎症に対応。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を参考、実践している。 食べる量と水分確保を記録している。 水分補給を拒絶する方には、飲み物を少しずつ、根気よく勧める。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	2か月に1回(第3木曜日)併設の特別養護老人ホーム主導の感染予防委員会に職員が出席して、常に正確な情報を共有している。 昨今、全国に猛威を振っているノロウイルスですが、当ホームは感染を免れている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾・まな板は毎回ハイター液に浸けて消毒。アルコール液も併用。 賞味期限に目を凝らし、牛・豚・鶏肉は国産にこだわる。 ポリエチレン製エンボス手袋を使用。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関への階段が親しみやすさを欠いているが、玄関周囲は季節の草花を植えて、家庭的な雰囲気を大切にしている。		安全面でサポートすれば、意外と階段の上り下りがリハビリの役目を果たしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方は音に敏感で、テレビ・電話の音や私語が騒がしくてもイライラと落ち着かないので適度な音量を心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチやソファを3か所に設置して、空間づくりを仕掛けている。ベンチは、夕日を眺めて感動したり、仲良し同士の語らいの場になり、眠れない夜は、闇を眺めながら夜が明けるのを待ちわびる場所になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台・仏壇・写真等を持ち込まれている。 趣味で作った作品や季節の色紙を壁に飾って鑑賞している。  ホームのパンフレットで提示しているが、古い物を処分されたり、家族が好まない傾向にある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝・昼・夕の3回、温度と湿度を記録している。これは冷暖房の冷やし過ぎや暖め過ぎがないように、職員の気づきの感性を培うためです。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一般の家庭風呂のためバスボード・浴槽内で使用する椅子・滑り止めマット・キャスター付きシャワー椅子・脱衣場に手すり等を設置して身体低下の利用者に対応している。 洗濯干しは、ベランダが狭いため室内の廊下で、フティックハンガー等を竿の代わりに使用して安全に洗濯が干せるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所間違い防止に、トイレと風呂場にのれんをかけて、目印にしている。 掃除するほうきやちり取りの場所を目につく所に置く。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ・玄関周りの鉢花の水撒き。 畑の草取り、野菜作り。 玄関外にベンチを置き、日光浴・外気浴に利用。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
		利用者の2/3くらいの
		利用者の1/3くらいの
		ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
		数日に1回程度ある
		たまにある
		ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
		家族の2/3くらいと
		家族の1/3くらいと
		ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの食堂からのロケーションが最高です。自然の四季の移ろいを眺めながら、ここだけは、ゆっくりと時間が流れている。  
ガチャガチャとした騒音に不安になるお年寄りには、穏やかに暮らせる居場所です。